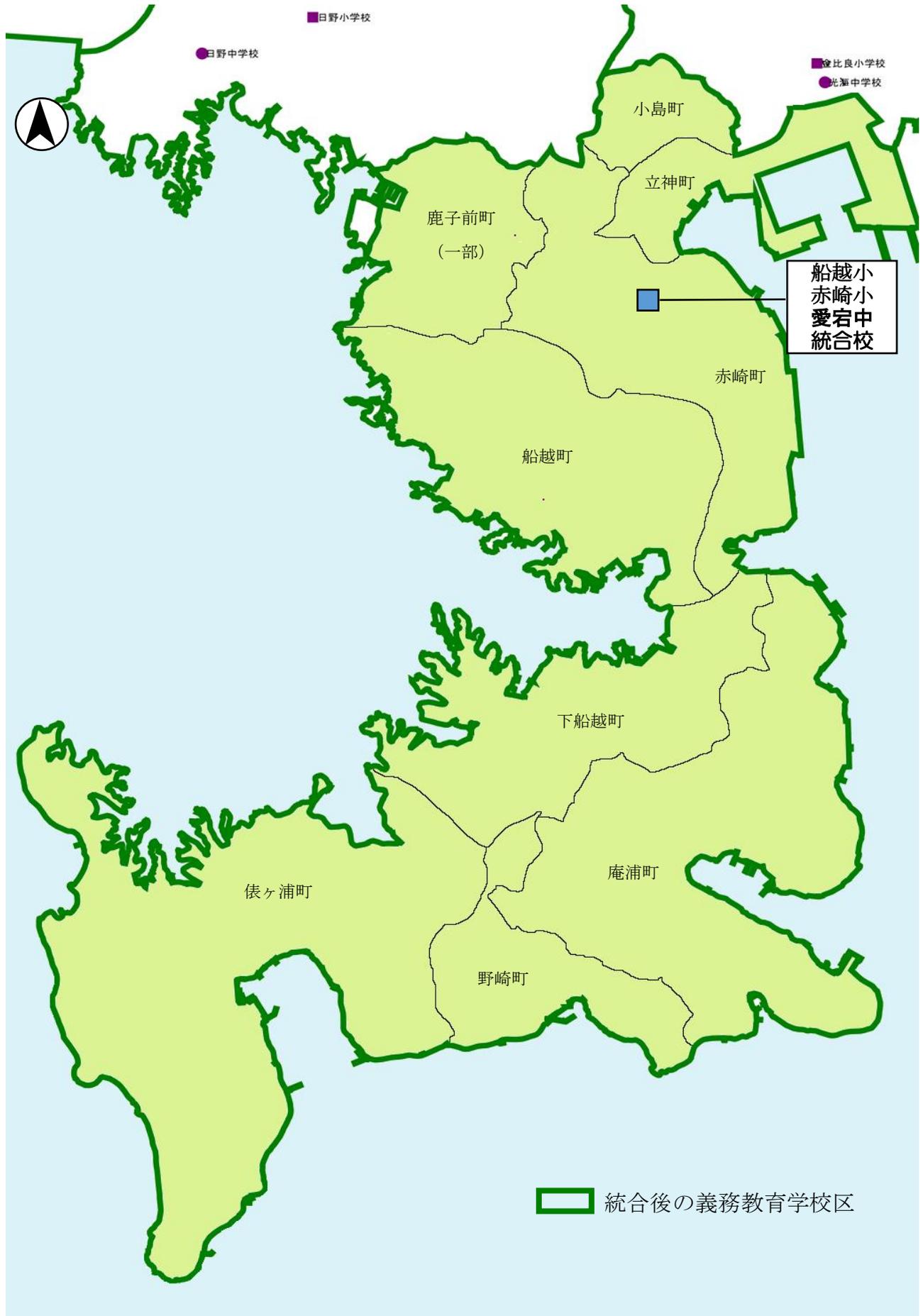


令和3年度
「新しい学校推進 意見交換会」資料

【愛宕中学校区】

佐世保市教育委員会
新しい学校推進室





3

各学校の現状 及び 児童生徒数の将来推計

① 現状（令和元年5月1日現在）

小・中学校	船越小	赤崎小	愛宕中
児童数（令和元年5月1日現在）	125人	338人	248人
学級数（特別支援含む）	6(9)学級	13(15)学級	8(11)学級
建築年数	57年	54年	53年
校舎延床面積（施設台帳より）	2,218 m ²	4,090 m ²	4,489 m ²
運動場面積	約 3,800 m ²	約 6,900 m ²	約 15,000 m ²
敷地面積	約 6,600 m ²	約 13,600 m ²	約 27,000 m ²
地区自治協議会区域	九十九	愛宕	九十九・愛宕

※敷地面積には山林や法面（人工的な斜面）を含めておりません。

② 愛宕中学校区の児童・生徒数の推移

再編しない場合		
学校名	令和元年 (5月1日現在)	約20年後 (2040年推計値)
船越小	125名	約80名
赤崎小	338名	約250名
愛宕中	248名	約150名

再編した場合		
学校名	令和元年 (5月1日現在)	約20年後 (2040年推計値)
船越 赤崎 愛宕 義務教育 学校	711名	約480名

4

学校再編案について

目的	☆船越小と愛宕中の小規模化を解消し、かつ、9年間を見通した小中一貫教育の導入によって、さらに児童生徒の個性や能力を伸ばす教育の充実を図ること ☆船越小と赤崎小と愛宕中の施設老朽化問題の解消
再編案	◎船越小と赤崎小と愛宕中を統合し、義務教育学校とします。（統合後の場所は愛宕中） （理由：船越小と赤崎小の統合により、望ましい規模の学校となりますが、愛宕中は小規模校のままとなります。そこで、3校を施設一体型の義務教育学校とすることで、学校全体として一定の集団規模を確保しつつ、児童生徒の個性や能力を育成したいと考えます。場所の選定理由は、愛宕中の敷地が広いからです。）
期待できる教育効果	○全学年でクラス替えが可能な規模の義務教育学校となります。 ○義務教育学校という一つの学校組織及び施設一体型となることで、9年間を見通した特色ある教育活動を、緊密に連携しながら行うことができます。 ○統合校の校舎を愛宕中の敷地に整備することで、より安全で整備された学校に通うことができます。
留意点	○現船越小・赤崎小校区の児童で、通学距離が長くなる児童が出てくる可能性があります。 ○統合校の校区が愛宕地区と九十九地区の自治協議会区域に分かれる形となります。
	対応策 ○現在、船越小・愛宕中で運行中のスクールバスの範囲拡張について検討します。

5

協議の視点について

- 学校小規模化対策のため、「船越小と赤崎小と愛宕中を義務教育学校に統合」することについて。